

第1回 阿賀野市総合計画審議会 議事概要

1 会議の概要

日 時：令和3年10月1日（金）午後2:00～4:00

場 所：阿賀野市役所 403 会議室

出席者：【委員】

大竹委員、加藤（丈）委員、加藤（傳）委員、佐久間委員、佐々木委員、
武田委員、丹羽委員

【市】

菅原総務部長、山崎民生部長、阿部産業建設部長、権瓶公園管理事務所長
事務局：企画財政課（大橋課長、星補佐、古田島係長、鈴木主任、
二瓶主事、圓山主事）

2 議事

- （1）阿賀野市総合計画の進捗状況（前期の施策・基本事業評価結果）について
- （2）阿賀野市総合計画の一部指標の見直しについて
- （3）地方創生関係交付金事業の進捗状況について
- （4）新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金事業の報告について
- （5）阿賀野市過疎地域持続的発展計画について

3 発言の内容（主な意見等（○：委員、●：市））

- （1）阿賀野市総合計画の進捗状況（前期の施策・基本事業評価結果）について

【農業の振興】

○農業の担い手育成や経営の組織化・法人化の推進については目標に達していないとのことだが、別の資料では「順調」ということになっている。この違いは何か。

●「順調」と表記されている資料は、前年度との比較を表したものである。農業の担い手育成などは、目標に達していないものの、前年度との比較では向上しているため、そのような表記となった。（企画財政課係長）

【土地の有効利用】

○空き家バンクに利用希望登録しているが、情報提供される物件は古いものや中心地から遠いものである。当市は空き家が多くなっているというが、行政が空き家バンクを上手く活用できていないのではないか。

●空き家バンクは、不動産業では取り扱うことが難しい物件の流通をフォローし、空き家を少しでも活性化させるという趣旨のものである。（産業建設部長）

- 空き家は多いが不動産流通に出ているものは少ない。空き家になってから暫く経ち、持ち主がどうしようもなくなってからやっと不動産流通に出したり、空き家バンクに登録する案件が見受けられる。
- 空き家対策としては、空き家バンクだけでなく空き家リフォーム補助を行う等の施策を展開しているが、尚も取り組みを強化していきたい。（産業建設部長）

【防災減災体制の充実】

- 熱海で土砂災害が発生した。国道 290 号線沿いには地滑り警戒区域もある。熱海での土砂災害の原因となった盛土等の造成を規制する条例などを検討する必要があるのではないか。
- 熱海の災害を受け調査した結果、当市には該当する盛土はなかった。熱海のような盛土の場合、排水対策などが重要であるが、今後の状況を注視していきたい。（産業建設部長）
- 熱海の土砂災害は警戒区域外で発生した。今後は災害関係にかなり気を使っていかなければならない。

【人権を尊重する人づくり】

- 令和 2 年度は差別や偏見のないまちになっていると感じる市民の割合が減少した。子育てや教育を進めていくうえで、社会に差別や偏見がないということは重要であるため、今後も人権施策を進めていきたい。
- 新型コロナウイルス感染症が流行を始めた当初、残念ながら罹患した方に対する差別などが発生してしまったことが指標値の減少につながったと考えられる。市では障がい者対策や貧困対策など様々な対策を講じ、差別や格差をなくすよう取り組んでいるところである。（民生部長）
- 学校では、阿賀野市の就学援助が他市に比べて充実していると話題になっており、現場としては助かっている。

【道路環境の充実】

- 阿賀野バイパスの開通が 3 年ほど遅れるとのことだが、道の駅が動き出している。今後どのように調整を図っていくのか。また、現在下黒瀬の交差点切り替え工事を行っているが、仮交差点が狭くなると聞いている。除雪対策は大丈夫なのか。
- 阿賀野バイパスと道の駅の供用については現在国と協議中であり、道の駅については予定通りの供用としている。バイパスの供用時期について国から明示されていない状況だが、少しでも早く供用を開始できるよう今後も国と協議を進めていく。交差点の切り替えについても国・県と協議中である。冬場に向けての対策について尚も協議を重ねていきたい。（産業建設部長）

(2) 阿賀野市総合計画の一部指標の見直しについて

→事務局より総合計画の一部指標の見直しについて説明し、質疑なく承認された。

(3) 地方創生関係交付金事業の進捗状況について

【ハクチョウの湖「瓢湖」周辺魅力向上計画事業】

○白鳥公園の遊具の改修について、改修期間が明示されていないが、どのような状況か。また、改修予定が決まっているのであれば、利用者が分かるよう明示してもらいたい。

●改修予定の大型遊具は古いものであるため、改修に使用する素材の選定等に時間を要している状況であるが、年内に改修を終える予定としている。改修期間の明示については検討したい。(公園管理事務所長)

○昨年度から新型コロナウイルス感染症で観光関係はだいぶ打撃を受けている。各種イベントも中止となっており、指標値が順調でないことはやむを得ないが、アフターコロナを目指した施策を検討いただきたい。

(4) 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金事業の報告について

○資料に記載されている事業の財源はほとんど国からのものか。

●特別定額給付金や子育て・ひとり親世帯臨時特別交付金、ワクチン接種事業は国の事業であり、残りは地方創生臨時交付金を活用して実施した事業である。(企画財政課長)

○特別定額給付金は一人当たり 10 万円だったはずだが、円単位まで事業費が計上されているのは何故か。

●特別定額給付金については、事務費を含んでいることが理由である。なお、特別定額給付金の給付率は 99.9%である。(企画財政課長)

○高齢者の PCR 検査費用の助成実績が 5 人にとどまったのは何故か。PR 不足ではなかったか。

●高齢者の PCR 検査費用については、需要がそれほど多くなかったため、結果として 5 人にとどまったものである。なお、令和 3 年度も同様の事業を実施しており、現在までに 15 人に対して助成を行っている。(民生部長)

●PCR 検査費用の助成実績が少なかった要因として、県内の場合はそこまで感染者が多くなかったため、疑わしい症状が出た場合や濃厚接触者に対して行政の PCR 検査が受けられる状況であった。そのため、個人的に検査を受ける人が少なかったのではないかと考えている。(総務部長)

○地方創生臨時交付金 6 億円のうち、農業対策は 450 万円程度であり 1%に満たない。その程度の配分にしかないのか。

●交付金は配分という形ではなく、各分野が必要とするタイミングに必要とすることを実施してきた。農業対策を軽視したものではないが、結果として実績額が少なかったということである。(企画財政課長)

(5) 阿賀野市過疎地域持続的発展計画について

○パブリックコメントを実施しているが、笹神地区の住民からどのような意見があったか。

●パブリックコメントは 2 名から 7 件の意見があった。内容は、より笹神地区の過疎対策をイメージできるよう記載して欲しい。IT 専門人材やデマンド交通の活用について検討してもらいたい等である。なお、笹神地区の住民はうち 1 名であった。(企画財政課長)

○人口減は止められない。不動産事業で空き家を扱っているが、動きも少ない。今はリモートワークも進んでいるので、空き家を改修してリモートワークの拠点を作る等、一つモデルケースを作ると次につながっていくのではないか。笹神地区は温泉もあり、ゴルフもできる。山や自然もあるので、バランスよく PR することができれば活性化されると思う。その辺りの仕掛けづくりを検討していただきたい。

○当市では笹神地区だけが過疎指定を受けている。過疎対策事業の財源が有利になるとのことだが、笹神地区だけが優遇されると地域バランスが崩れるのではないか。

●財源に関しては、他地域の事業でも笹神地区に関連していれば優遇されるものもある。様々な情報を収集し、総合計画や地域バランスを加味しながら笹神地区の過疎対策を進めていきたい。(企画財政課長)

○過疎指定を受けたことで財源が優遇されることは笹神地区にとってはチャンスである。最大限に生かして活性化につなげていただきたい。

<その他>

○水原小学校の通学路（紫香園十字路）が危険であるという意見が保護者から多く出ている。通学時間帯だけでも通行止めにするなどの対策はできないか。

●通行止めなどの規制は警察の判断となるため、難しい。(総務部長)

- 該当地区の危険性や課題は承知しているが、住宅が密集しているため十字路から小学校校門までの道路改良を進めることが難しい状況である。（産業建設部長）